

別紙様式 1

令和6年度 指定管理者運営状況点検・評価シート

対象施設名	徳島県立高丸山千年の森	施設所在地	徳島県勝浦郡上勝町大字旭字中村66-1
指定管理者名	一般社団法人かみかつ里山倶楽部	指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
施設所管課	林業振興課	【連絡先】	088-621-2459

1 施設の概要

設置年月日	平成15年7月17日
設置目的	森づくりに関する県民の意識の啓発を図り、森と人との共生に資するため、県民参加の森づくり運動の活動拠点として設置
施設内容	高丸山千年の森（千年の森広場1.0ha、保全ゾーン25.1ha、育成ゾーン31.0ha、協力ゾーン58.9ha）計116ha 千年の森ふれあい館（本館311.12㎡、体験作業所）
利用料金等	無料
開館日・休館日等	千年の森ふれあい館；毎週水曜日、12月28日～1月4日

2 指定管理者の業務

指定管理者の業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高丸山千年の森の施設運営業務（利用の促進、利用の拡大のための啓発活動、イベントの実施、自主事業の実施、受付案内業務、遊学の森におけるボランティアグループの活動促進） ・施設の維持管理業務（清掃業務、修繕業務、設備運転管理等業務、警備業務、植栽管理業務） ・利用の許可等に関する業務（レクチャールーム、体験作業所等）
------------	--

3 施設の管理体制

管理体制	正職員 4 名 臨時職員 7 名 計 11 名
	<ul style="list-style-type: none"> ○総括責任者1名、事務局(事務局長1名、常勤スタッフ2名、非常勤スタッフ7名（部会長4名含む）) ○部会（森づくり部会、環境教育部会、交流連携部会、リスクマネジメント部会） ○一般社団法人かみかつ里山倶楽部 協力団体11団体（(有)環境とまちづくり、(株)かみかついきゅう、(株)もくさん、NPO法人郷の元気、ハーモニーライフクラブ旭、上勝林友会、勝浦川若手林業研究会、上勝自然体験学習研究会、やいたか、勝浦川流域ネットワーク、森づくりリーダー会）

4 施設の利用状況

利用者数 (人)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	R6年度	616	1,081	572	681	998	640	817	1,127	385	521	285	408	8,131
	前年度	641	1,055	546	1,069	989	573	791	833	301	342	302	425	7,867
	前々年度	701	1,178	659	657	561	354	789	827	374	445	344	540	7,429

月別利用 料金収入 (千円)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	R6年度	該当無し												
	前年度	該当無し												
	前々年度	該当無し												

施設毎 利用料金収入 (千円)		計												
	R6年度	該当無し												
	前年度	該当無し												
	前々年度	該当無し												

5 収支の状況

(単位：千円)

項 目		令和6年度	令和5年度(前年度)	令和4年度(前々年度)	
収入	指定管理料	18,487	18,480	18,480	
	自主事業	716	711	913	
	事業収入	219	183	529	
	その他	33	76	0	
	計	19,455	19,450	19,922	
支出	固定費	人件費(常勤職員)	9,335	9,005	7,658
		人件費(臨時・アルバイト等)	2,374	3,228	4,416
		光熱水費	672	619	618
		事務所運営費	3,530	3,189	2,943
	運営費	1,462	1,330	1,228	
	維持管理費	清掃費	528	528	528
		施設警備費	259	250	250
		メンテナンス費	226	298	670
		メーカー等発注業務費	66	58	63
		修繕費	166	146	250
	計	18,618	18,651	18,624	
	収支		837	799	1,298

6 コスト削減・サービス向上に関する取組状況

<p>コスト削減の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の施設の補修にあたっては、可能な限り材料の現場調達を行い、職員が実施することにより、購入や外部発注にかかる経費の削減を図っていた。 ・省エネルギー・省資源化による光熱費削減への取組みとして、「クールビズ」・「ウォームビズ」を取り入れることで、過度なエアコンの使用を控えていた。 ・コピー・印刷用紙の節約による事務費の削減に努めていた。（裏紙の積極利用など） ・物品等購入方法の見直し、インターネット通信販売を活用した物品の安価な調達を図っていた。 ・外部への講師依頼の縮減の取組みとして、積極的な研修参加による能力向上で内部スタッフが対応できるよう努めていた。 ・施設の維持管理をイベントに取り入れることで、参加者の力も借りながら、人件費の削減を図っていた。 ・令和6年10月から郵送料が値上がりしたことから、SNS(公式LINE、X)やHP、電子メールなどでの情報発信やGoogleフォームを使った受付等をすすめていた。
<p>サービス向上の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して多彩な事業を開催し（主に土・日・祝日の開催）、年間カレンダーを作成して県内各地で周知を図っている。県外や遠隔地で来館が困難な人に対しては、HPやSNS(公式LINE、X)を活用した情報提供に取り組んでいた。 ・新たな利用者意見を取り入れるため、大学や外部の団体等からの視察を受け入れ、年齢によらず広く意見の聴取を行い、イベントへの反映を行っていた。他にも、利用者に企画・実践してもらう「ゆめいろプログラム」を行っており、新規企画の検討材料となっていた。 ・各種研修への積極的参加により、職員の質を高めることで、安全管理の向上や、より良いイベントづくりに努めていた。また、参加した研修先で人脈を形成し、イベント講師も確保していた。 ・安全登山に向け「森の安全カード」を配布している他、とくしま防災FreeWi-Fiを活用して様々な情報にアクセスできる利便性を提供し、利用者の安全・防災意識の向上に寄与していた。 ・非化石燃料由来の電気を購入し、施設の運営に使用することで、森づくり活動の参加者が移動時に排出するCO2をオフセットし、森づくりによって削減されたCO2がすべて参加者の活動によるものとなるよう考慮していた。 ・インバウンドや障害者への対応として、スマホの翻訳アプリを活用していた。 ・施設内のパンフレットや木育広場のおもちゃのレイアウトを変え、新たに電気カーペットを設置した。 ・知事のア承を得たうえで、条例により定められた営業時間（9：00～16：30）からさらに拡大し、8：30～18：00まで運営していた。また、要望があれば22：00まで利用可能。 ・freeWi-Fiを備える等、災害時の地域の避難場所としての役割を担っていた。 ・利用者と情報交換をして、利用者目線の意見も取り入れながら効率的な施設状況の把握を行っていた。

7 自主事業の取組状況

<p>自主事業取組状況</p>	<p>「森の学校」という統一コンセプトで、主催事業とあわせて、自主事業に取り組んでいた。R6年度においては、外部予算、参加費を活用しながら、計9回開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木に親しむツリーイング体験 ○上勝産材でままごとキッチンづくり ○ウッド・セラピー体験 ○森の恵み 春の薬草料理体験 ○ブナ林をシカから守るぞ(3回実施) ○勝浦川流域フィールド講座 <p>事業を積極的に実施し、施設の利用促進や高丸山千年の森づくり・上勝町にかかわるきっかけづくりを図っていた。</p>
-----------------	--

8 管理運営業務に係る点検・評価

項目	評価	点検結果
①利用者ニーズの把握・分析と利用促進 ・利用者ニーズの把握 ・利用者ニーズへの対応 ・施設の利用促進	S	<ul style="list-style-type: none"> ・行事開催時のアンケート調査に加え、来館者への聞き取り等を行い、利用者ニーズを把握し、プログラムに反映させていた。 ・HPやSNS(公式LINE、X)による情報提供を行い、遠隔地からの利用者を募っていた。 ・徳島木のおもちゃ美術館と連携し「すぎの子木育広場」の活用を図っていた。また、ふれあい館の「すぎの子木育広場」は、公園などが無い周辺地域において、数少ないこどもの遊び場として定着していた。 ・支援学校の授業で利用するため、高丸山で伐採した木材をに提供した。
②自主事業 ・計画した自主事業の実施	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書に基づいて様々な自主事業を開催していた。アンケートや聞き取り調査によって把握した利用者のニーズを反映し、内容を改善した活動を計画していた。
③適正な維持管理 ・施設の保守管理・修繕 ・年間作業計画に基づく適正な維持管理 ・県備品等の適正な管理	A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設毎に管理方法を明確に定め、適正な維持管理を徹底していた。 ・日々の見回りによる確認作業により、大きな故障にならないうちに施設の点検補修を実施していた。
④収支計画 ・収支計画の達成状況 ・コスト削減の状況 ・外部委託の状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部委託は、八重地協議会など県内団体に、必要最小限の範囲で委託していた。 ・物品の購入にあたっては、基本的に町内企業の商品を優先的に利用し、地域に還元していた。 ・町内で調達できないものについては、ネット販売を利用して購入することで、経費の節減等に取り組んでいた。 ・「クールビズ」・「ウォームビズ」を取り入れ、過度なエアコンの使用を控え光熱費の抑制に努めていた。 ・予算の進捗管理を徹底し、確実な予算執行に努めていた。
⑤管理運営体制等 ・管理運営業務計画書 ・職員の配置、研修計画 ・諸規程の整備 ・利用料金の徴収、減免 ・モニタリングの実施状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施など、職員の能力向上に努めていた。 ・年4回の定期的なセルフモニタリングが実施されており、その結果を早急に業務に反映していた。 ・条例に基づき、文書管理規定も新たに整備できていた。 ・業務計画に基づき適切に人員が配置されていた。
⑥職員体制 ・職員の労働条件	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書の職員体制に示された労働条件を満たす勤務ができており、適正な能力及び実績を評価した人員配置がなされていた。
⑦地域への貢献 ・地元雇用の状況 ・地元企業への業務委託	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高丸山現地施設の清掃等を地元団体に委託するなど、地元雇用・地元団体委託を積極的に実施していた。
⑧地域との連携 ・地元団体等との連携	S	<ul style="list-style-type: none"> ・地元団体へは施設や森林、林道の維持管理等について委託を行っていた。 ・また、地元上勝町の15団体と保有施設における活動・維持管理・マネージメントなど、様々な分野で連携協力を行っていた。
⑨安全管理 ・安全管理体制、事故防止体制 ・災害等発生時の対応体制 ・マニュアルの整備、職員教育 ・個人情報保護への適正対応	S	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に安全管理研修を行うなど、安全管理に対する体制の向上を図っていた。 ・豪雨後には迅速な施設の巡視、補修、報告を行っていた。 ・個人情報取扱基準を整備し、遵守を徹底していた。 ・利用者との連絡手段として、相手が個人の場合はメールを使用し、不特定多数へのイベント情報の拡散などはLINEグループを使用してメールアドレスの流出を防ぐ等、ツールを使い分けることで情報リスクマネジメントをしていた。 ・無線を活用し、事故発生時等にも確実な連絡体制を確保していた。

項 目	評 価	点 検 結 果
⑩環境への配慮 ・環境対策の状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ・上勝町が実施しているゴミ分別収集（43分別）を遵守していた。 ・過度なエアコンの使用を控え、冬期は炭を使用するなどの節電や、非化石燃料由来の電力の使用による環境対策にも取り組んでいた。 ・カーボンオフセット型イベントとして、合同森づくり大会を開催していた。 ・施設の修繕は、現地発生材や周辺木材を使用し経費削減を図った。
⑪その他 ・関係法令の遵守状況 ・情報公開請求への対応体制	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は関係法令の遵守を徹底していた。 ・情報公開規定を定めていた。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズを積極的に把握し、早急に対応していた。 ・環境への配慮がなされ、安全管理体制も整っており、適正な運営管理が行われていた。 ・地元との強力な連携を実施し、利用者の安全・防災意識の向上も図っており、地域社会に貢献していた。

- 〈評価指標〉 S：協定書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
A：概ね協定書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われている。
B：協定書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫や努力が求められる。
C：管理運営が適正に行われたとは認められず、改善を要する。

※ 項目については、事業計画書と整合性をはかる。

9 その他（今後の課題及び対応等）

- 施設管理について
一部の施設で経年劣化が進んでおり、修繕・メンテナンス等を検討する必要がある。具体的には以下のとおり。
- ・エアコンの更新
→ふれあい館設立時から更新しておらず、22年が経過している。
 - ・トイレの浄化槽
→モータの油漏れ等、長年の使用に伴って不具合が発生している。
 - ・太陽光パネルの導入
→ふれあい館は災害時に地域の避難場所になると想定され、非常用電源として活用したいとのこと。
- 収支状況について
・概ね例年と変化はないが、光熱費の高騰等による影響が少なからずあった。
・過去に人件費の増額について、職員から要望がある。
- 利用者の増加について
・木のおもちゃ美術館と連携しながら、「すぎの子木育広場」の活用や体験的なイベントの開催など木育の推進を図る。
・新規プログラムの立ち上げや、現在の行事内容の見直しなどにより、既存の客層以外にも訴えかける。